



こんな使い方は！？

皆さんのアイデア・ご意見をお聞かせください。

3. 湯本駅前イメージ

～ 交流拠点・共同利用エリアの整備方針の検討 ～

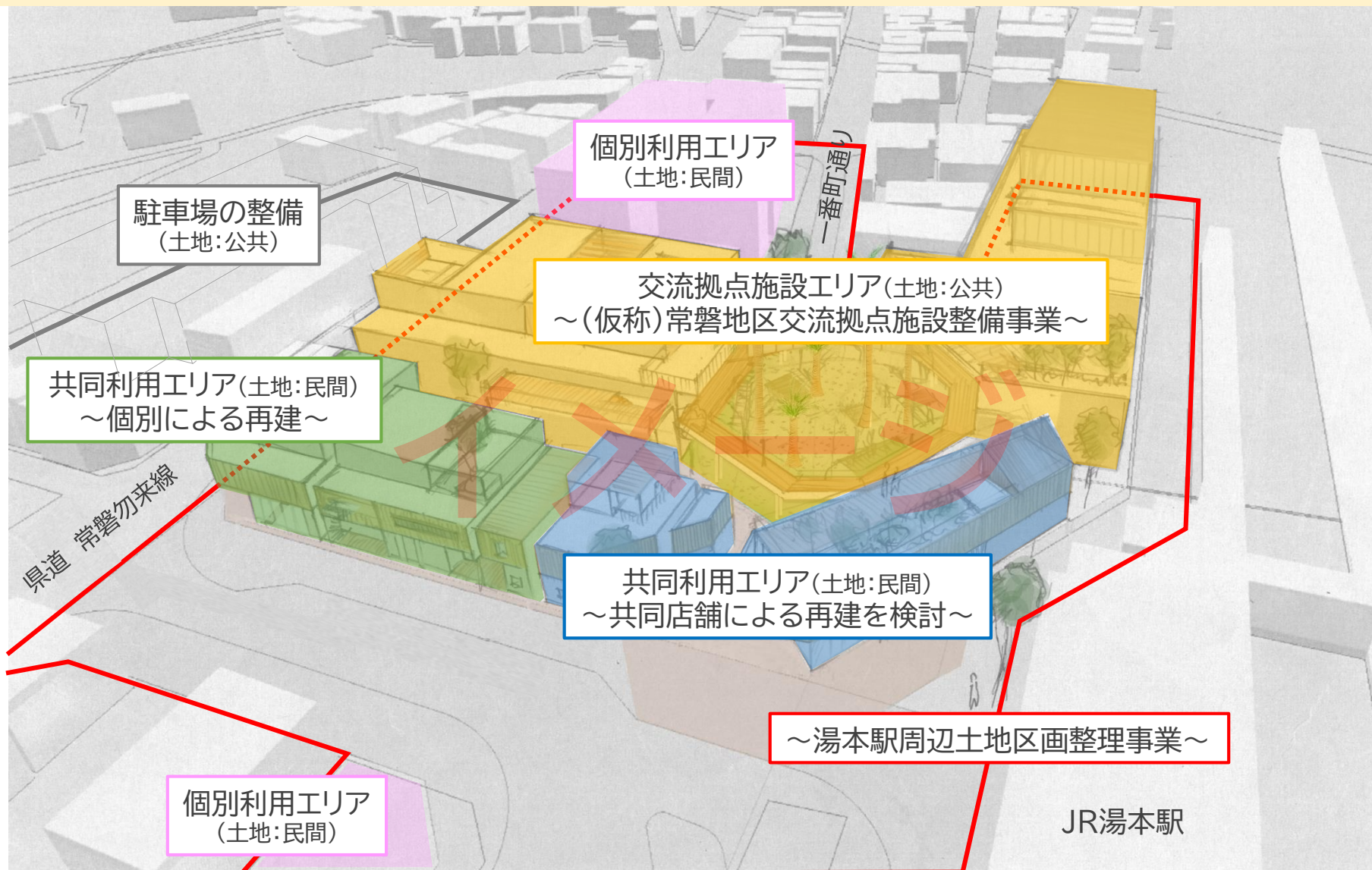
- ※ パースや平面図は検討のためのイメージです。今後の関係者等との協議により変更となるため取扱いに注意してください。
- ※ 共同店舗の計画は、検討中のものであり、権利者等の整理がなされたものではありません。
- ※ 建物のデザインは要点を伝えるために描かれたものであり、現段階で建物の具体的な設計は行われていません。



3.1 全体イメージ ※街区再編のライン・説明入り【再掲】



- 湯本駅前のイメージ・考え方の検討を進めています。このイメージ・考え方をタタキ台としながら、再建を図る権利者の皆様や地域の方々と話し合い、湯本駅前における各事業を推進していきます。

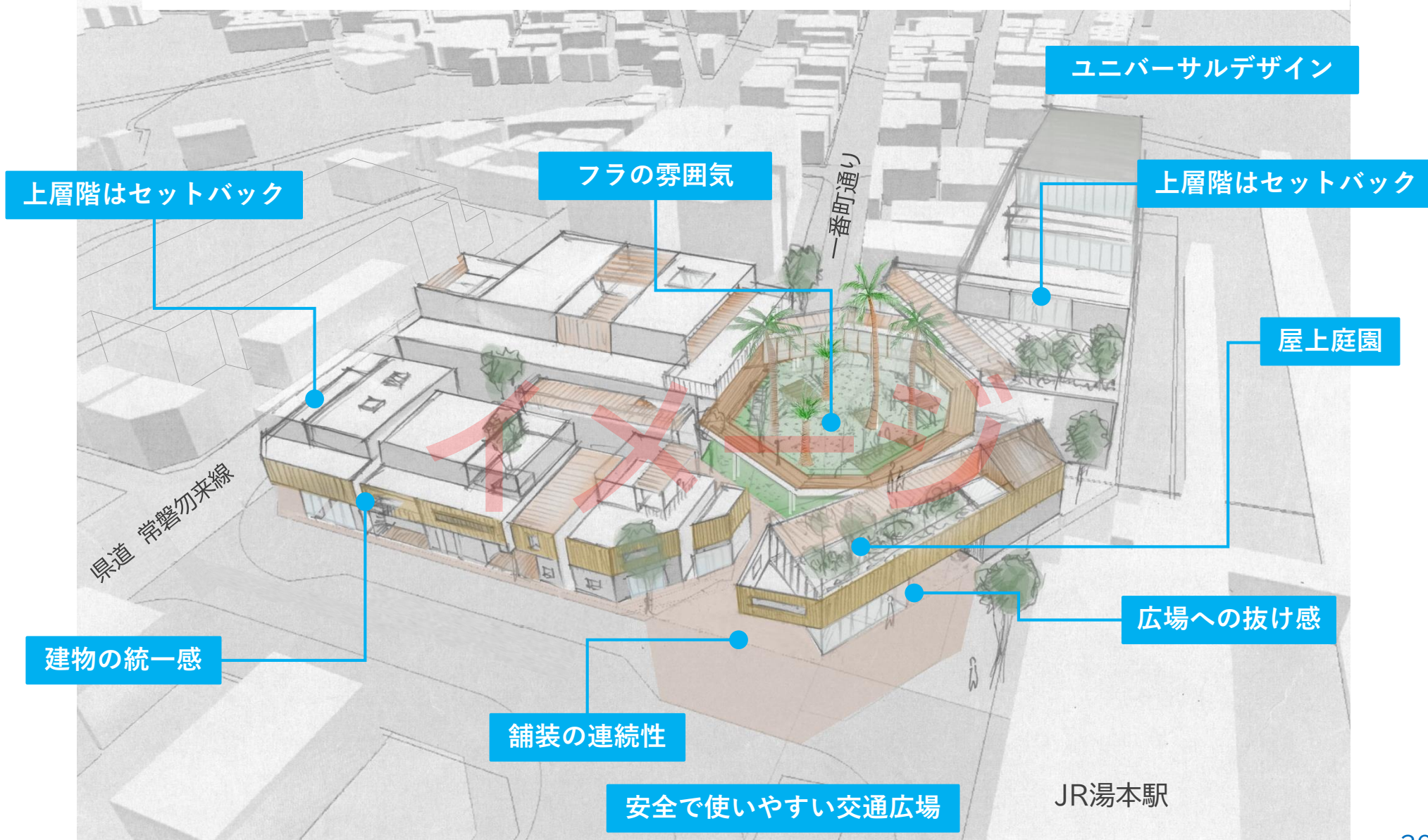




3.1 全体イメージ【再掲】



最大の地域資源(宝)である“温泉”と古新融合の文化としての“フラ”を感じる湯本駅前

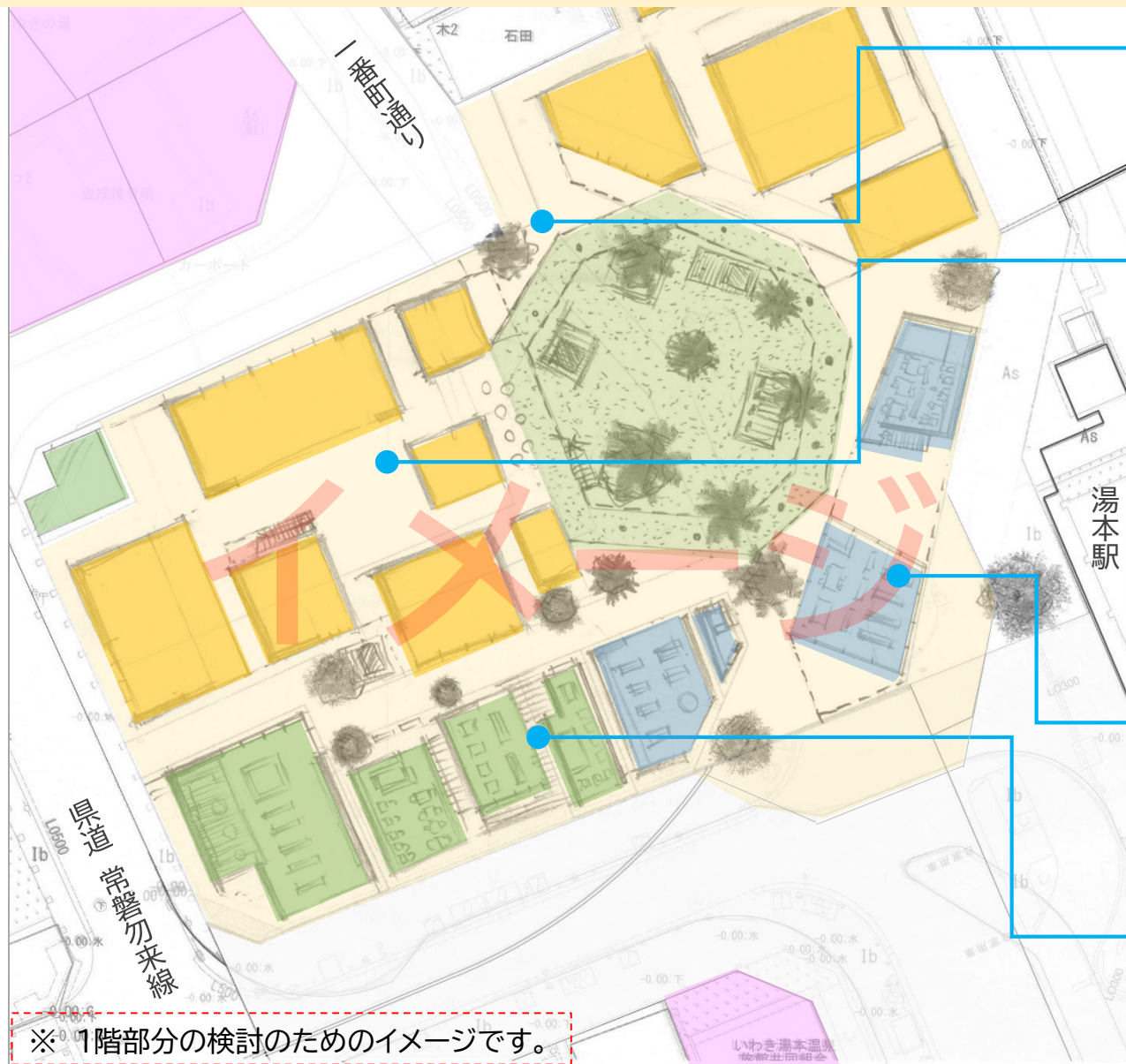




3.2 平面計画の考え方



- 公共・民間それぞれの機能をどのように配置するとよりにぎわいを生み出すことができるでしょうか。



一番町商店街とのつながる広場

メイン広場は一番町商店街と連続した空間構成とする。広場が街へのゲートとして位置づけられ、イベント時などには連動したアクティビティが誘発されるように計画する。

公共施設と民間施設の配置計画

広場を中心に、公共施設と民間施設が混在して配置される計画とする。それぞれのサービスや機能を協同で運用する仕組みで地域にも観光客にも開かれた新しい施設を創造する。

庁舎×多目的室×会議室×図書館×温浴施設×飲食店×地場産品×観光案内所×お土産屋など

(利用のイメージ)

コミュニティ まちづくり活動	各種相談 健康・子育て等	フラダンス 練習・発表	吹奏楽 練習・発表	子供会・地域 レクリエーション	キッチン スタジオ
～ 公共の空間は、稼ぐ空間としても利用 ～					
読書・学習 調べもの	お風呂	マルシェ	観光ガイド おもてなし	お風呂 お団子	コーヒー お酒

湯本のゲートとなる建物

湯本駅前の観光案内所は、街のゲートとしての役割を担う。観光客を出迎えるだけでなく、毎日駅を利用する地域住民のための駅前シンボルとして存在することが大切。

路地と抜け道

小さな建物の隙間に、表の道路から裏の路地への抜け道を用意する。回遊性のある楽しい移動の連続が活気ある界隈をうみだす。

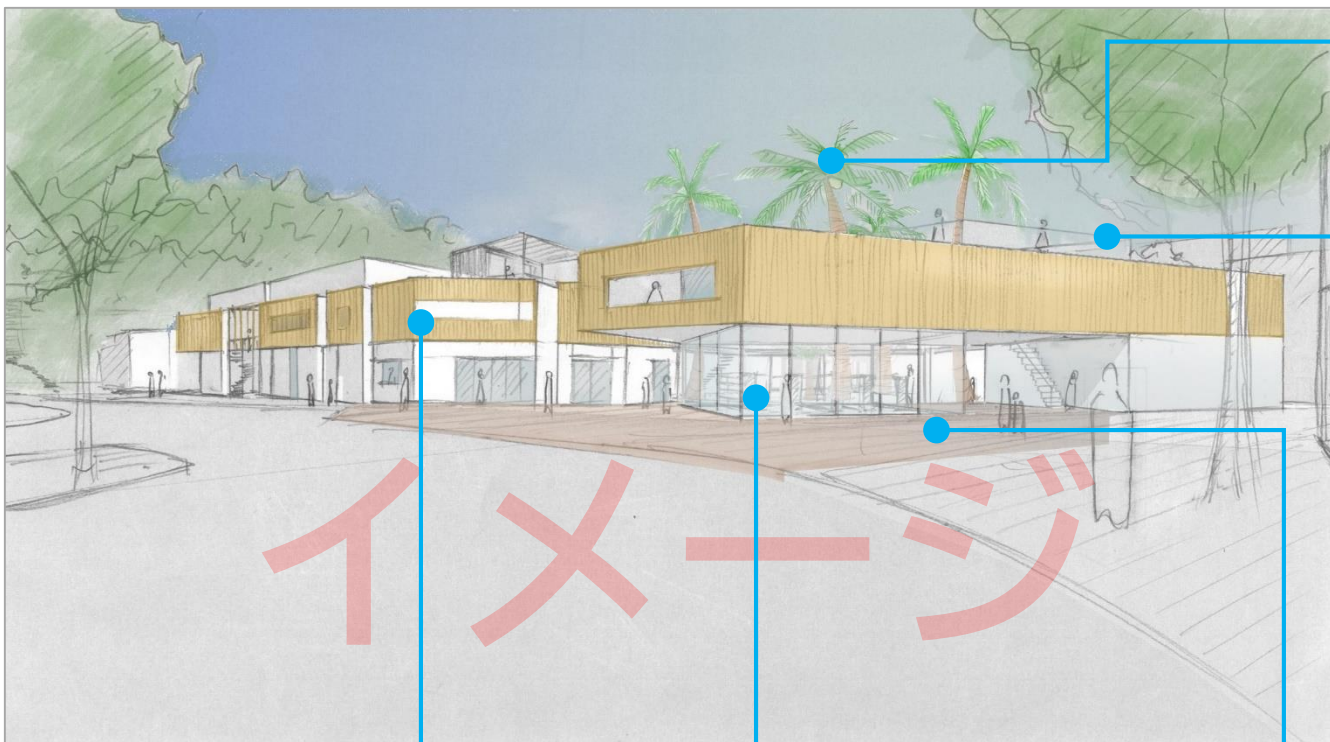
※ 1階部分の検討のためのイメージです。



3.3 駅前の建物の考え方



- いわき湯本温泉の玄関口として観光客を迎える佇まいは、どのような考えがよいでしょうか。



フラの雰囲気

建物の向こうに感じる緑でフラの雰囲気を演出してみる。温泉地でありフラのイメージのある街ならではのワクワク感の演出方法はまだまだ考える要素がたくさんある。

屋上庭園

みゆき山の緑をゆっくり感じる場所が駅前にあるといい。広場や駅前での活動を見おろすことのできる場所があるといい。大きな広場とは異なったゆっくり過ごせる場所が駅前にあるといい。

建物の統一感

例えば2階部分の外観を同じ素材で仕上げてみる。建物の形や大きさ、歩道との関係などは、建物それぞれの個性をだしながら、駅前の空間に連続した統一感をうみだすように考える。

広場への抜け感

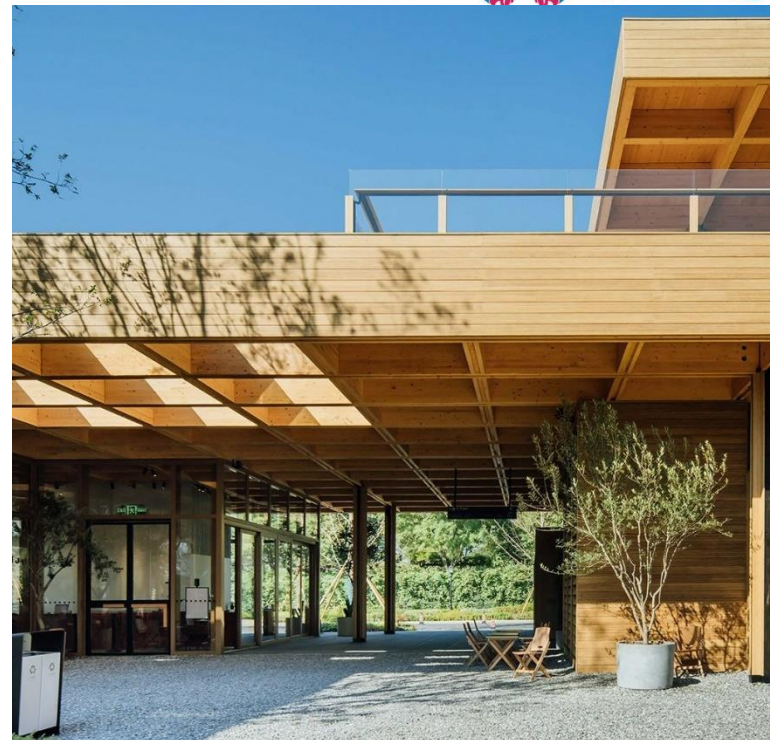
駅前から広場を感じることでつながりを大切にする。訪問者を広場へと誘うだけでなく、イベント時には駅前と広場の一体的な使い方を想定した建物を計画する。

舗装の連続性

歩道（公道）と施設内の路面の舗装を連続した仕上げとすることで、駅前空間から交流拠点までをひとつの「場」として考えることで居場所の広がりを街全体へと引き込む計画とする。



3.3 駅前の建物の考え方(事例写真)





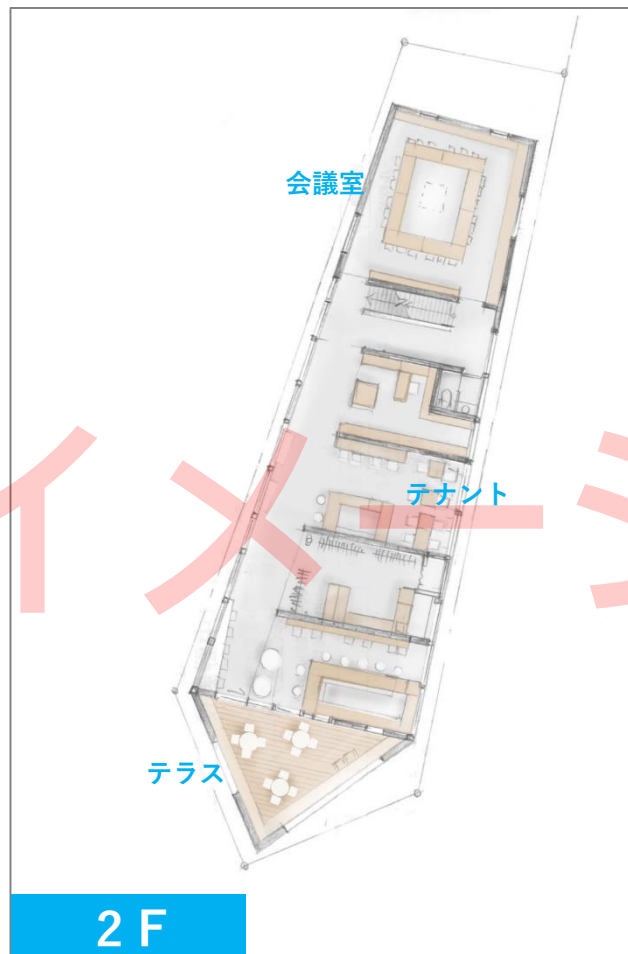
3.4 駅前の共同店舗の考え方



- 駅前のゲートの役割を果たす建物にはどういった機能をどのように配置するとよいでしょうか。



建物の中央を広場とつなぐことで、ゲートとして機能を作り出す。またガラス張りの外観は、内部の活動を見せながらも、その先の広場を感じる造りとなる。



階段室を境界に会議室とテナントエリアを南北に配置する。賑わいを感じるテナント群は駅前側に、広場側には屋外テラスへと抜ける共用廊下を配置する。



広場を見おろすことのできるデッキスペースと、緑を配置した屋上庭園。程よいサイズの閉じられた空間は、大きな広場とは違った質の居場所をつくる。



3.4 駅前の共同店舗の考え方(内部の事例写真)





3.5 交流拠点施設に導入する機能の考え方



- 公共と民間の機能を融合した施設はどのような使い方がイメージされるでしょうか。

観光機能

エントランス (たまり機能)



- 観光地の玄関口として観光案内などの情報発信機能を配置
- 誰でも気軽に立ち寄りやすい空間
- 夕方以降や土日祝日も利用可能

図書館機能

公民館機能



- 施設内どこでも図書の閲覧可能
- カフェなどの民間施設とも一体的に構成
- 公民館の講座にも使えて、貸会議室としても使えるような利用方法を検討

多目的ホール機能



- 会議や講演会、演奏の他、軽スポーツ等の多目的な活動に利用
- 災害時の避難場所として活用するため2階以上に配置

温泉とフラの魅力を 体験する機能



- 温泉とフラのまちに訪れたと感じられるような雰囲気づくり
- 休憩スペースでゆったり本を読む

にぎわい創出機能



- カフェで購入したドリンクを施設内やまち庭にテイクアウト
- 集客や滞留を促す機能（小売など）を誘導

支所機能



- 窓口機能の集約化を検討
- 災害時の地区本部の拠点機能も必要
- 夕方以降や土日祝日も寂しくならないような配置を検討

公共

民間



3.5 交流拠点施設に導入する機能の考え方(参考事例:はっち)

青森県八戸市

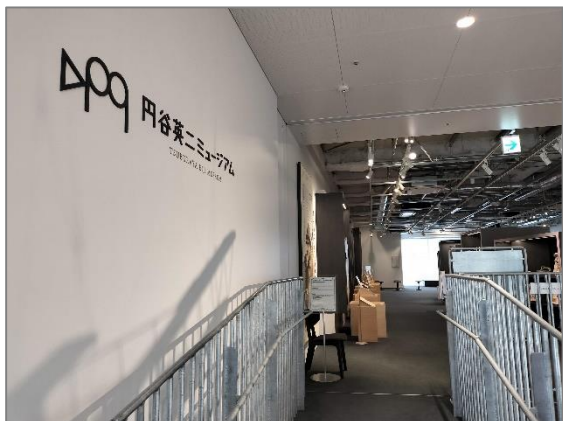




3.5 交流拠点施設に導入する機能の考え方(参考事例:tette テツテ)



福島県須賀川市



tetteのチャレンジショップ



3.6 広場の考え方



- 広場は、様々な使われ方をイメージして、ハレとケ(日常の使い方とイベント的使い方)に対応する居場所とするのはどうでしょうか。

視点場と通路

交流拠点と支所施設をつなぐブリッジは、広場を見おろすことのできる回遊通路の機能も担う構想。湯本で行われる様々なイベントに合わせて多様な使いかたができるように、広場を囲う構成で提案。

南国イメージ

建物で囲われた広場を、南国のイメージで計画する。街の風景から切り離されていることで、ひとつの世界観をしっかりと構築することが可能となる。フラ感と温泉感をどのように融合させていくのかということが、駅前空間の大切なテーマとなる

常設ステージと足湯

広場にはベンチや足湯といったリラックスできる場所を用意する。普段は皆が座ることのできるベンチは、イベント時にはフラのステージとして活用できる仕掛け。ハレとケのどちらにも対応できる広場があることが、街全体の活性化につながる。

屋根のある居場所

広場に屋根のある空間があることは、利用者にとってより居心地がよく、より使いがっての良い居場所を提供することにつながる。イベント時だけでなく、日常生活の一部として使われる広場になることが、駅前広場のあるべき姿となる。



3.6 広場の考え方(事例写真)

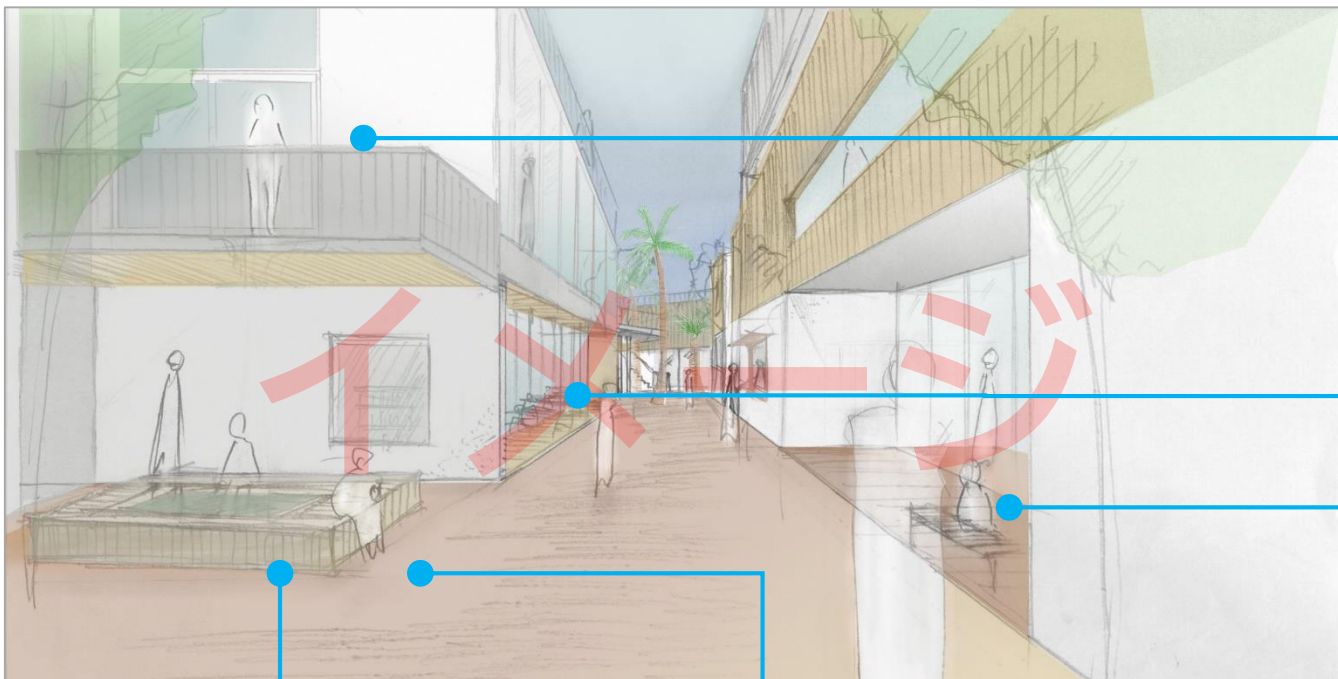




3.7 路地の考え方



- ただ通過するだけではなく、居場所にもなる路地とするために、どのような考えがよいでしょうか。



座れる場所

エリア内には座ることができる設備を随所に計画する。ベンチのように使える段差や、ちょっとした足湯スペースなど、「座る」仕掛けをつくることで、たくさんの居場所にアクティビティがうまれる。

憩いの場

メイン広場以外にも、小さくても広がりのある場所がたくさんあることが大切。それぞれの場の特徴をもたせるように計画すると、使う人が自分の過ごす場所を自由に選べることで施設が豊かな場所となる。

立体的な空間

小さな路地に対して、見下ろすことのできる立体的な空間をつくる。たくさんの視点場があることは、人の移動を促すことにつながる。

路地側に開く

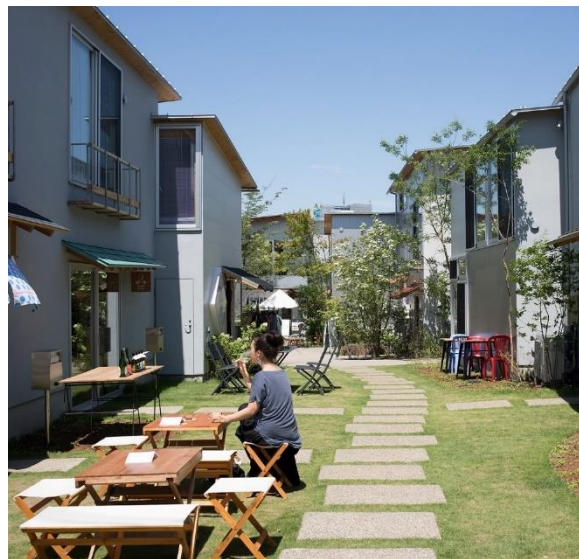
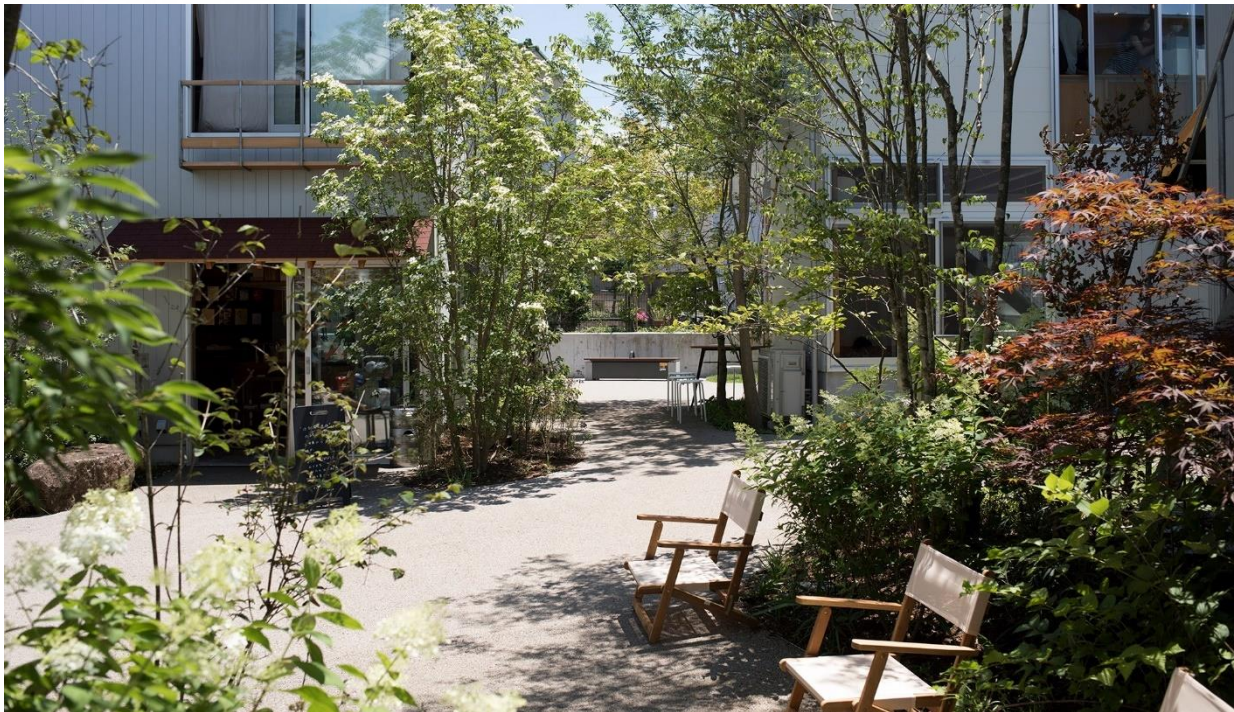
交流施設には裏も表もない。建物がどの方向にも開かれていることで、たくさんの人を招き入れ、周辺全体の景観に貢献するデザインを心がける。

裏にしない

地権者によって建て替えられる建物の裏側（路地側）もお店の表としての構えで計画する。通常であれば街に対する表の顔に対して、裏となる路地側にも開くことで、お客様との接点を両面にもつ構成になる。



3. 7 路地の考え方(事例写真)





4. 事業の進め方

～ 土地区画整理事業と交流拠点施設整備事業 ～

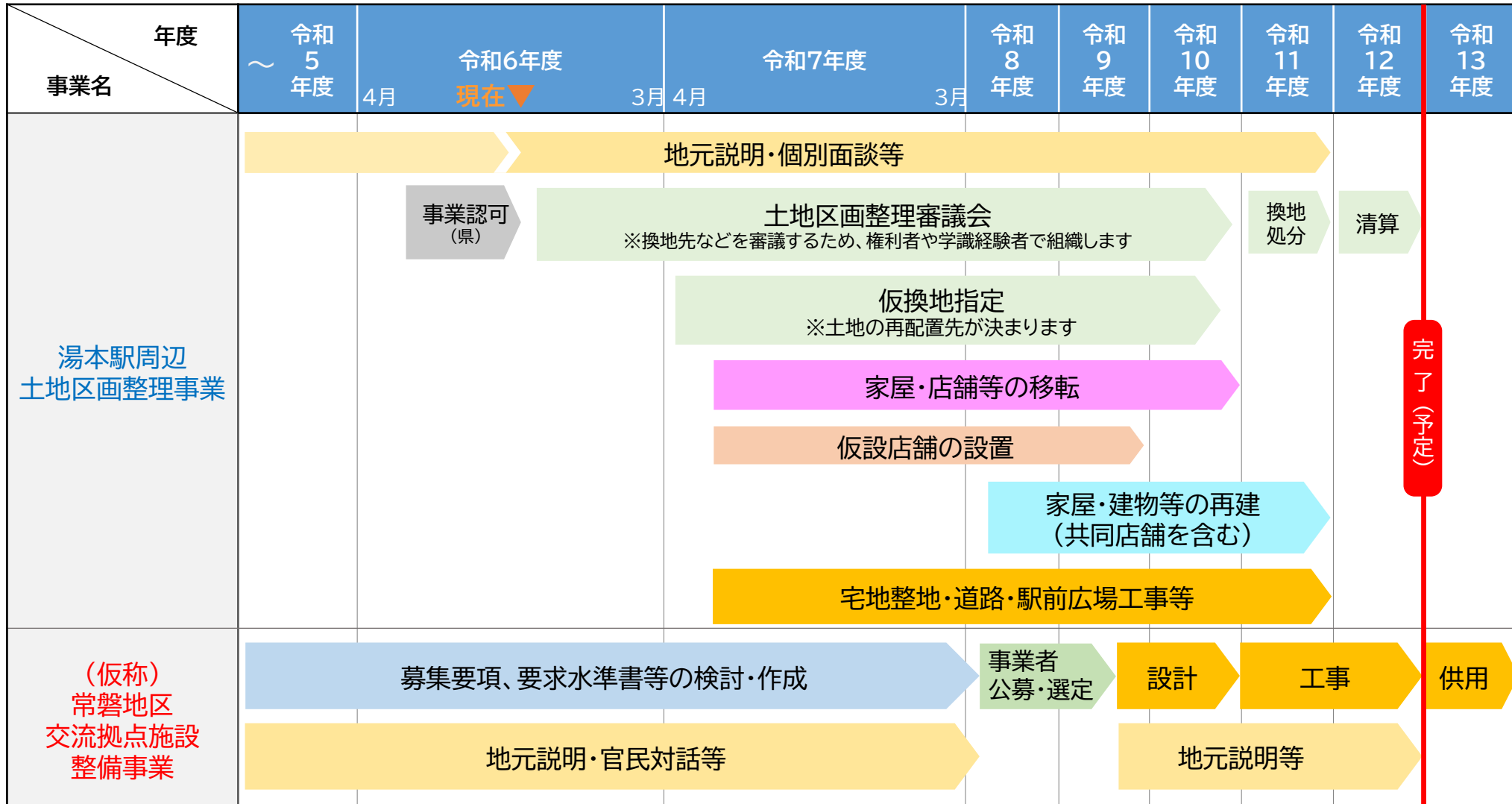


4 事業の進め方



※R6.11時点での想定であり、今後、事業の進捗状況により変更となるものです。

- 土地区画整理事業については、県の事業認可を得て事業計画を決定し、事業化となりました。また、交流拠点施設整備事業については、事業者募集に向けた「要項」や施設に求める基本的な性能を定める「要求水準書」の検討を進めているところです。
- 全体として、令和12年度末の完了を目指し、両事業を推進します。丁寧な周知・説明を行いながら事業を進めていきます。





湯本駅周辺のまちづくり

あなたの**声**を**聞**かせてください！



JR湯本駅周辺地区の「まちづくり」を進めています。
湯本の未来を創る大事な事業です。
湯本の未来づくりに皆さまからの声は欠かせません。
ぜひ、アンケートにご協力をお願いします。

このアンケートはWEBで回答できます。
右のQRコードから専用のページに
アクセスしてください。
回答期間：～令和6年12月15日(日)



アンケートに関する問い合わせ先

担当事業	(仮称) 常磐地区 交流拠点施設整備事業	駅前広場・道路の整備	御幸山公園
担当部署	総合政策部 創生推進課	都市建設部 都市整備課	都市建設部 公園緑地課
連絡先	0246(22)7032 (直通)	0246(22)1276 (直通)	0246(22)7518 (直通)



5. 質疑応答

- みなさまからのご質問にお答えするために、
お一人様一問ずつとさせていただきます。
- ご質問の状況に応じて、追加でご質問を
お受けします。



V. その他

1. 湯本駅周辺土地区画整理事業に関する窓口の設置について
(都市建設部 都市整備課 区画整理係)
2. 常磐地区 まちなみ景観づくり 取組みのご紹介
(都市建設部 都市計画課 景観係)
3. 新・いわき湯本温泉コンテンツ創造ワークショップについて
(都市建設部 都市計画課 都市再生係)
4. 「湯本駅前みゆきの湯公衆浴場」の廃止について
(観光文化スポーツ部 観光振興課)



お問い合わせ先

交流拠点施設整備事業	創生推進課 公民連携グループ	0246(22)7032
土地区画整備事業	都市整備課 区画整理係	0246(22)1276
まちなみ景観づくり	都市計画課 景観係	0246(22)7512
市街地再生整備基本計画	都市計画課 都市再生係	0246(22)7513
みゆきの湯公衆浴場	観光振興課 観光施設係	0246(22)7480